

都市計画マスタープラン 改定にあたっての論点

1. 改定にあたり、市が考える今後の都市づくりのポイント

1. 新たな計画、開発の進展への対応	●市の都市構造に大きな影響を与える新たな計画は、拠点形成につながることから、今後、進展するプロジェクトを位置付けるとともに、将来都市構造を見直すことが必要。	テーマ2 テーマ3-1
2. 歩いて暮らせるまちづくり	●車社会から、徒歩、自転車、公共交通機関優先の社会への転換	テーマ1 テーマ4
3. 景観まちづくり	●山崎景観形成地区指定への動きなど、まちの個性や活力からも景観まちづくりが重要になっている。	テーマ5
4. 次世代につながるまちづくり	●将来にわたり地域社会が持続可能であるためには、地域住民が住み続けたい、一度市外へ出ても、また戻ってきたいと思えるまちづくり。	テーマ1~6
5. 災害への対応	●地震、風水害に加え、土砂災害への対応	テーマ3-2
6. 良好なストック形成の観点から市街地の質の向上	●河川や豊かな緑に恵まれ、緑や水辺環境をどのように活かすか ●歴史的建造物や、鹿沢城跡など歴史的文化的資源をどのように活かすか ●空き家空き地などへの対応	テーマ5 テーマ3-1
7. 土地区画整理事業の廃止や、長期未着手の都市計画道路への対応	●区画整理事業廃止区域の土地利用方針 ●長期未着手の都市計画道路の方針	テーマ3-1 テーマ3-2

2. 今後目指すべき宍粟市全体のまちの姿について

テーマ1

○宍粟市が目指すべき将来都市像について

【現況都市マスの都市づくりの理念】

【都市づくりの理念】

住民アンケート調査の結果より将来の都市像として、

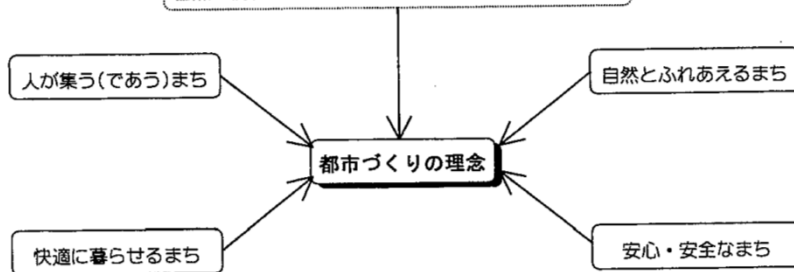
『自然と調和のとれた、良好な居住環境が備わったまち』が導きだされており、都市的な開発型のまちづくりよりも、あらゆる意味で生活環境を重視したまちづくりへのニーズが高いといえる。

さらに、現状のポテンシャル等から、本町の目指すべき都市像のイメージとしては、以下の4つが挙げられる。

人が集う(であう)まち／自然とふれあえるまち／快適に暮らせるまち／安心・安全なまち

■目指すべき都市

自然と調和のとれた、良好な居住環境が備わったまち



以上のイメージより、目指すべき都市像における都市づくりの理念を以下のように掲げる。

まちの特性である豊富な自然環境と交通結節機能を活かし、また今後のまちづくりにおいて重要な防災対策の充実や定住化の促進等を踏まえ、

**「活気と潤いのある、
住みよい田園文化都市の形成」**

○市民アンケート調査の結果 [アンケート報告書 P35、P3]

・将来目指すべきまちの将来像

「買い物など日常生活が便利なまち」(44.9%)

「高齢者や障がい者が暮らしやすいまち」(43.1%)

「災害に強い安全なまち」(35.4%) など。

・お住まいの地域について満足度が高いのは、「山や河川などの自然の豊かさ」「田園の緑の豊かさ」「買物の便利さ」など。

【宍粟市総合計画における将来像と基本目標】

■将来像の理念

人と自然が輝き みんなで創る 夢のまち

●「人と自然が輝き」とは

市民一人ひとりが、人と人との助け合い支え合い、人と地域とのつながりを大切にすることを通じて、豊かで美しい自然環境を守っていくとともに、資源として活用していくことで、宍粟市の魅力を高めていくことを意味します。

●「みんなで創る」とは

市民一人ひとりがまちづくりの主役であることを自覚し、参画と協働によってまちづくりを進めることを意味します。

●「夢のまち」とは

市民一人ひとりが、「住んで良かった」「いつまでも住み続けたい」と思えるまちを次の世代へつなぐことを意味します。

■まちづくりの基本目標と基本方針

基本目標 1. 住み続けたい、住んでみたいまち

人口減少・少子高齢化が進む中では、市民が「暮らしやすい」・「いつまでも住み続けたい」と宍粟市で暮らすことを誇りに思い、また、市外の方々からは「訪れたい」・「住んでみたい」と思える魅力あるまちを築いていくことが重要です。

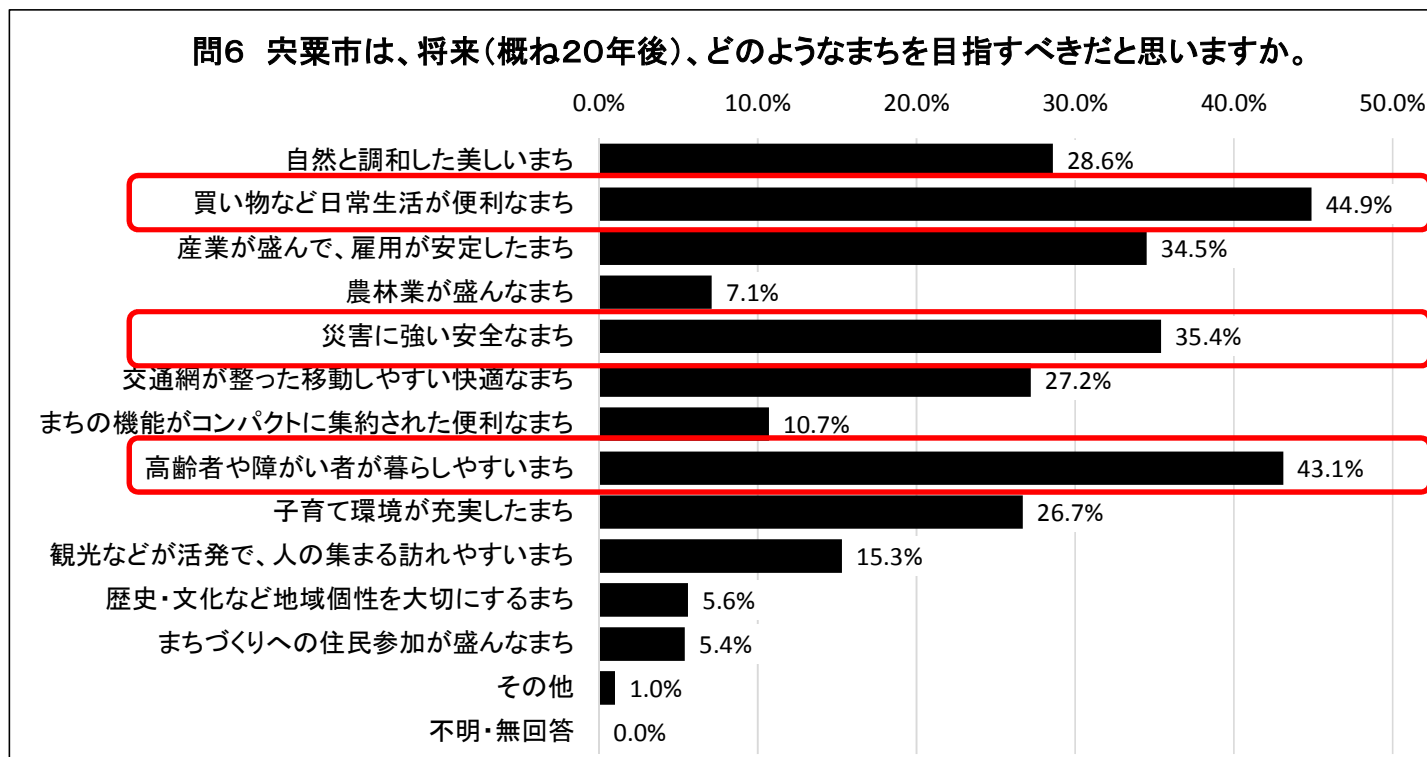
このため、日常生活における生活基盤の維持、充実及び防災・防犯の強化を図るとともに、本市の豊かな自然環境を保全し、さらにはその地域資源を活かし地域産業を活性化させるなど、市民が快適で安全・安心に暮らせ、地域経済に活力を生み出すまちづくりをめざします。

基本目標 2. 安心して子どもを産み育てられ、いつまでも元気に過ごせるまち

人口減少・少子高齢化が進む中では、子どもから高齢者までの誰もが、住み慣れた地域で、安心して健康にいきいきと暮らし続けられるまちを築いていくことが重要です。

このため、保健・医療・福祉の連携及び子育て・教育環境をさらに充実させることにより、全ての市民が、生涯を通じて健やかに暮らせ、また安心して子どもを産み育てられるまちづくりをめざします。また、市民一人ひとりが生涯にわたり生きがいを持ち、より充実した人生を過ごすことができるよう、生涯を通じていきいきと学べるまちづくりをめざします。

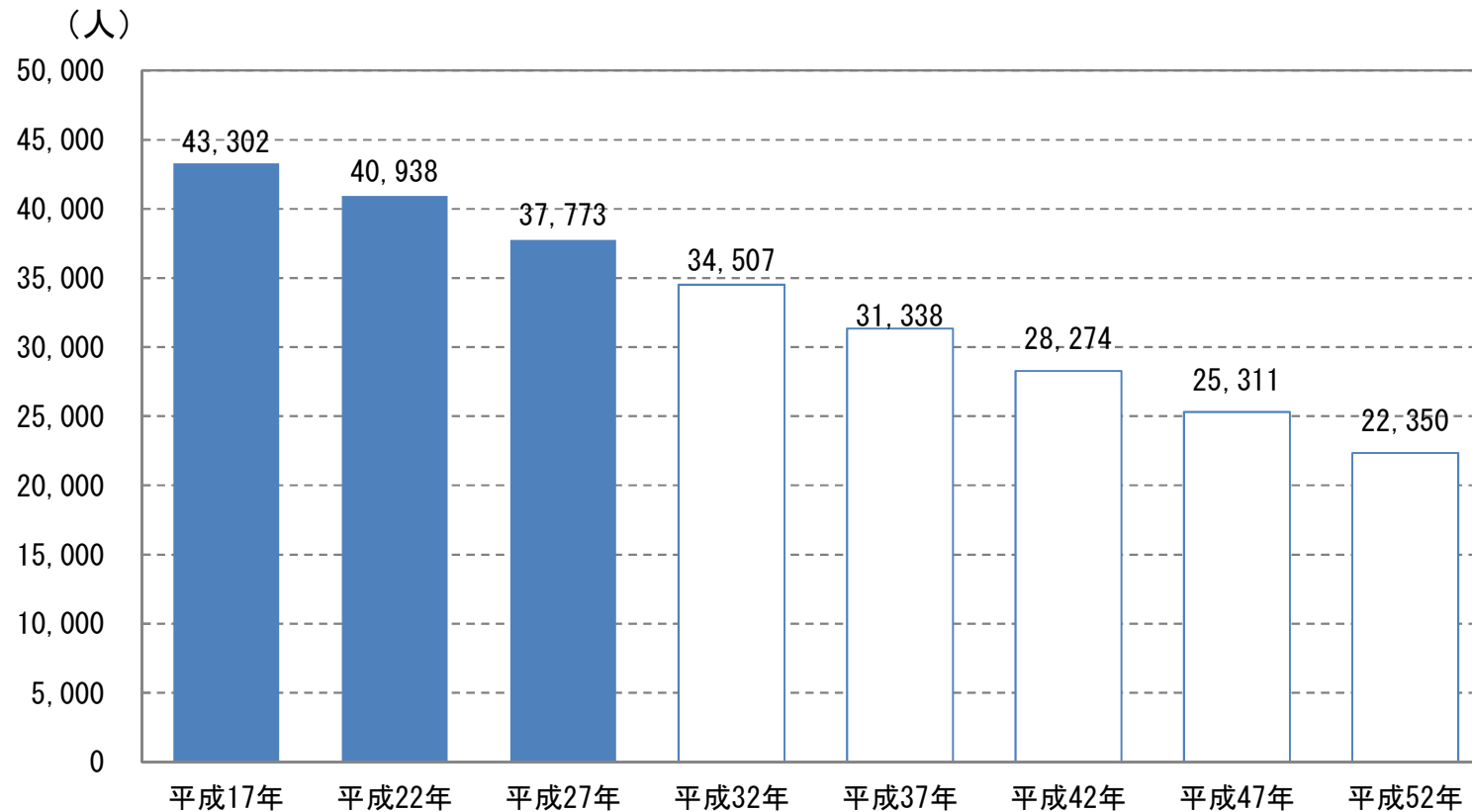
【市民アンケート調査の結果】



多く支持されたのは、
「買い物など日常生活が便利なまち」(44.9%)
「高齢者や障がい者が暮らしやすいまち」(43.1%)
「災害に強い安全なまち」(35.4%)など。

【人口の見通し】

宍粟市の人口の見通し



出典 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計（平成30年推計）」

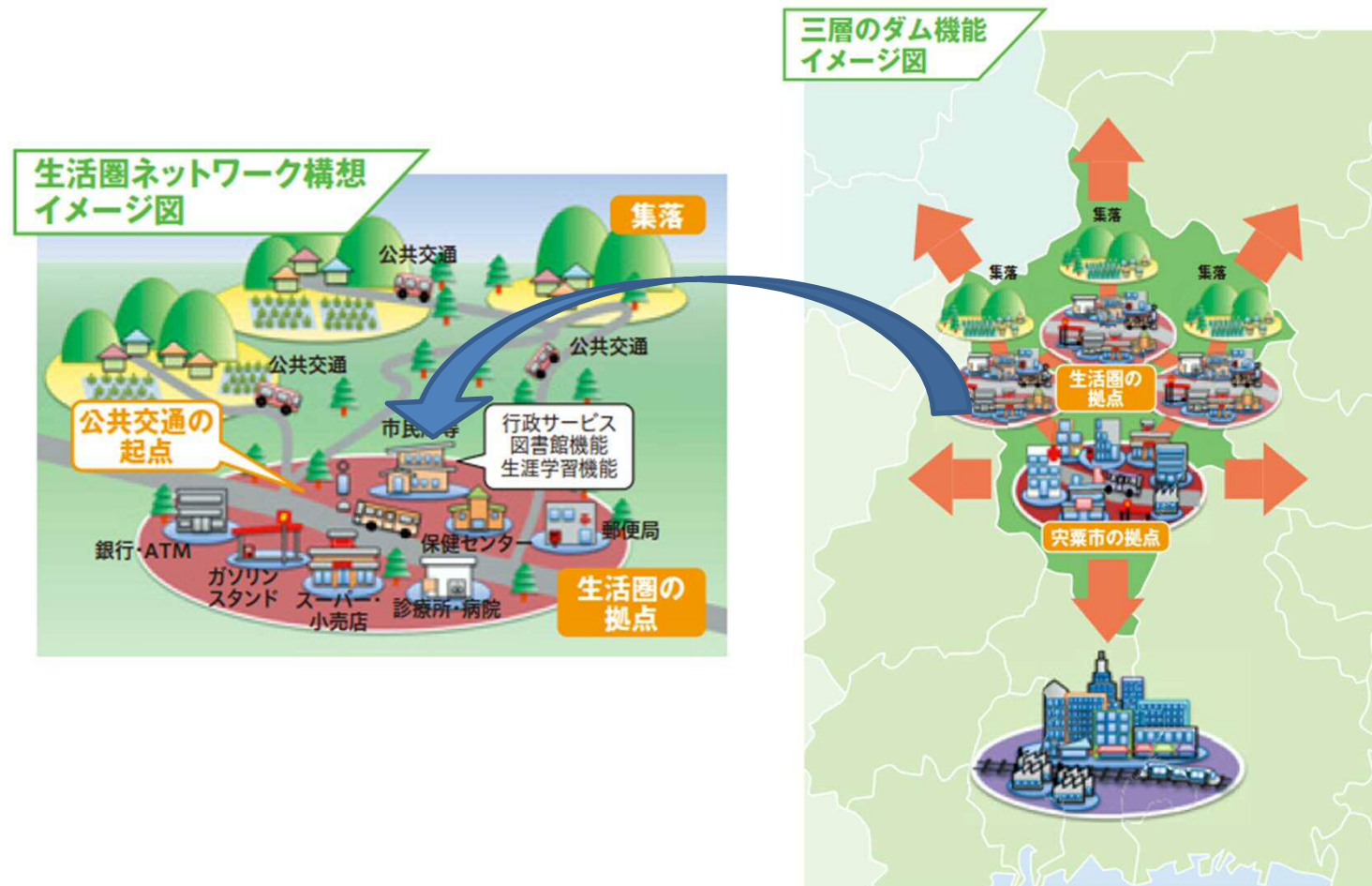
- ・人口：約3.7万人（平成27年）→約2.2万人（令和22年）
- ・高齢化率：32.1%（平成27年）→47.3%（令和22年）（生産年齢人口（44.2%）を上回る）

テーマ2

○将来都市構造

(まち基本構造を大まかな土地利用、拠点、軸で表現したもの)

- 一宮・波賀・千種それぞれの生活の拠点(第一のダム)が整備されれば穴栗市の拠点(第2のダム)はどのような機能が必要か？



3. 今後進めるべき分野別のまちづくりについて

テーマ3-1

○土地利用

- 住宅地、住環境は？
- 中国道以南の混在する土地利用は？
- 沿道敷地の利用は進むが、背後の土地利用は？
- 新病院の供用後は人の流れが大きく変化するため、それに対応した交通アクセスをどのように確保すべきか？



出典 宍粟市資料

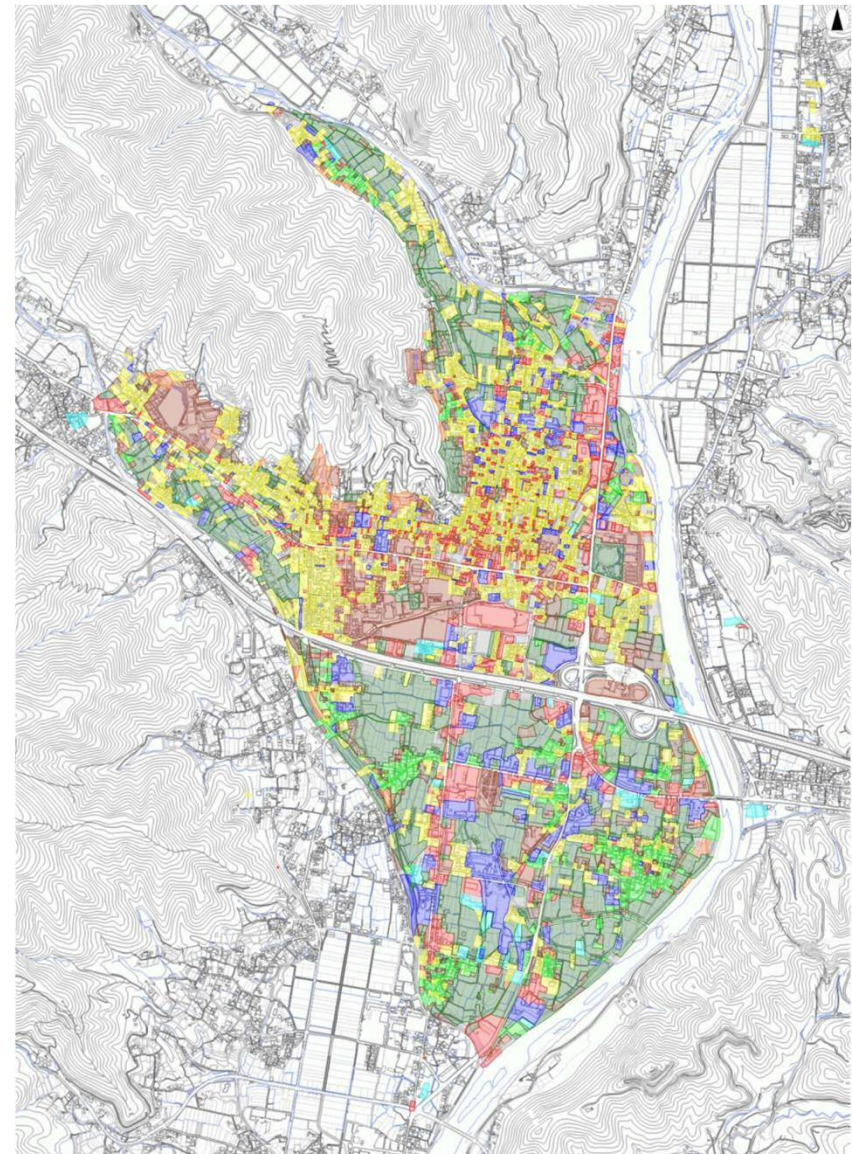


図 農地転用の位置

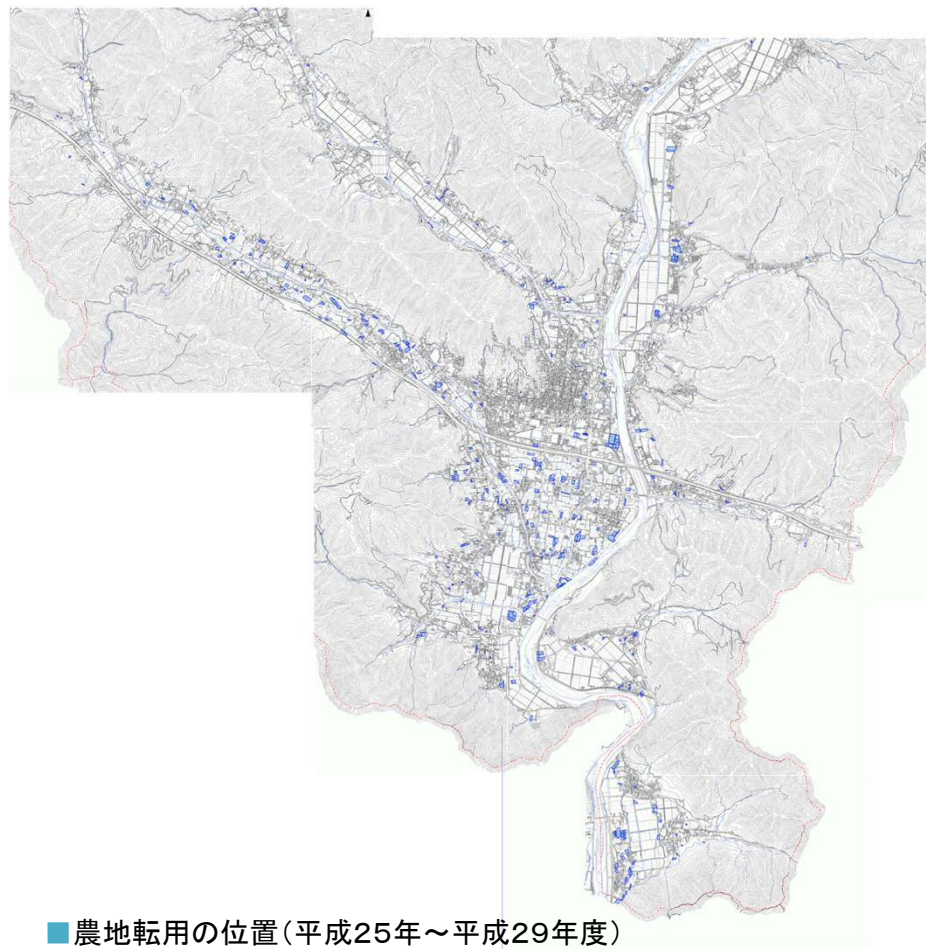
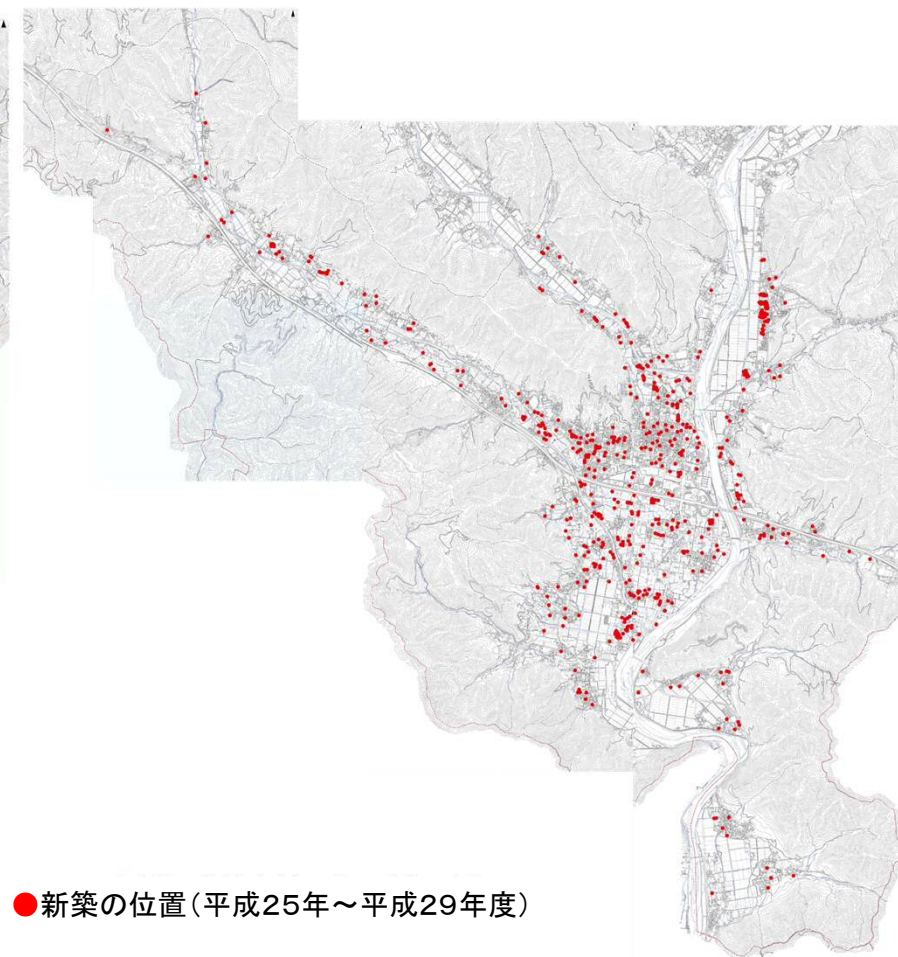
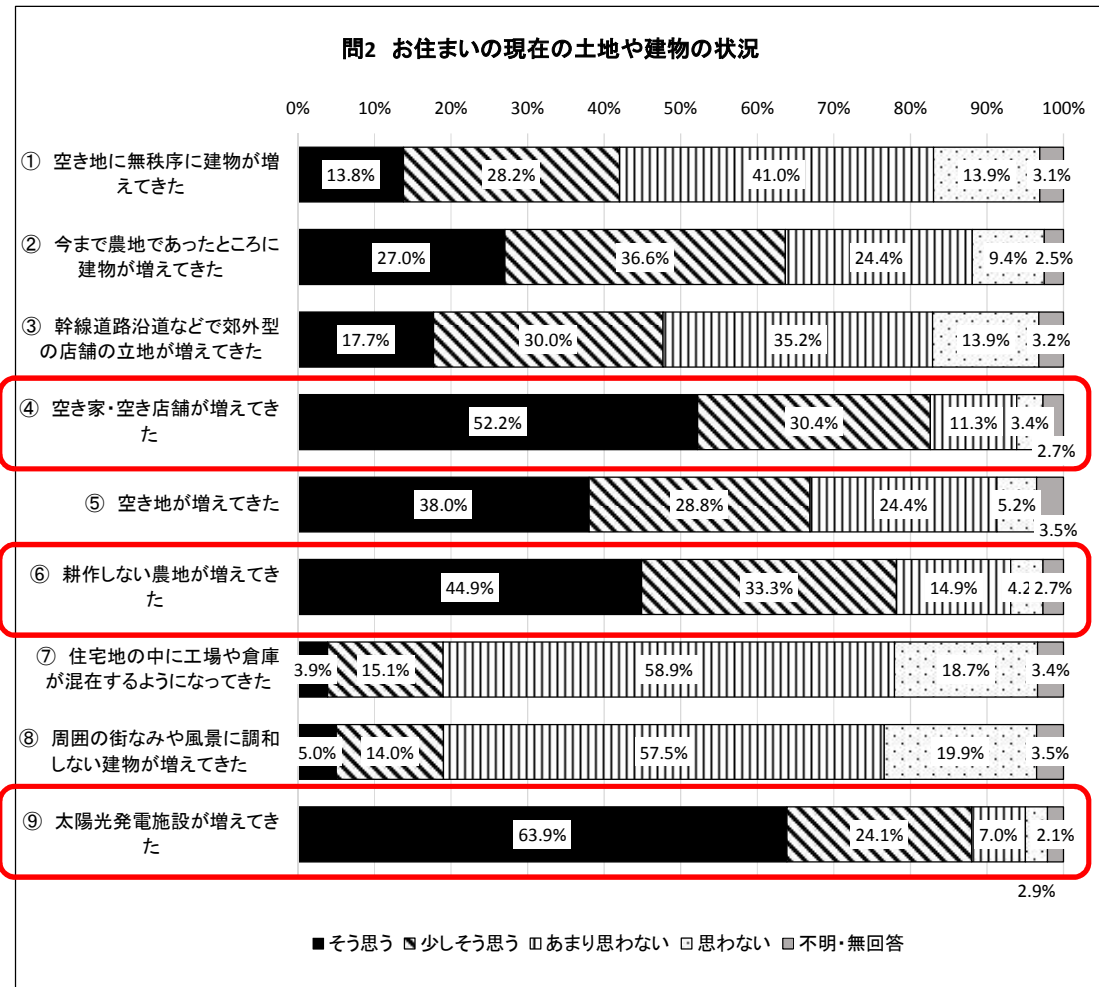


図 新築の位置



【市民アンケート調査の結果】



特に「そう思う」が多いのは、
 「太陽光発電施設が増えてきた」(63.9%)
 「空き家・空き店舗が増えてきた」(52.2%)
 「耕作しない農地が増えてきた」(44.9%)など

テーマ3-2

○都市基盤、公共施設

- 都市基盤や公共施設は、選択と集中を進め既存施設の長寿命化を図っていくが、これからの将来考えられる課題は何か？
- 中心市街地の賑わいを創出するには？

図 都市計画道路の現況

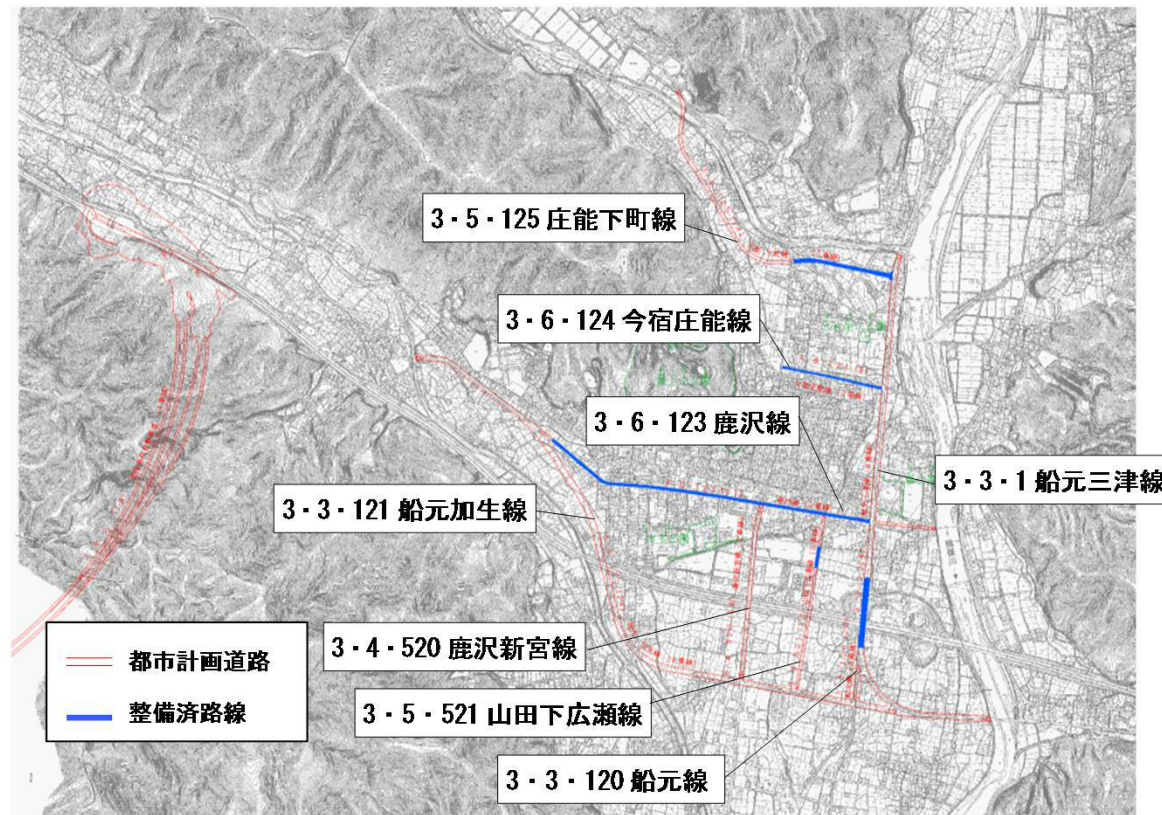


図 公共施設の分布図



出典 市勢要覽資料編

図 教育施設等の分布図



出典 市勢要覽資料編

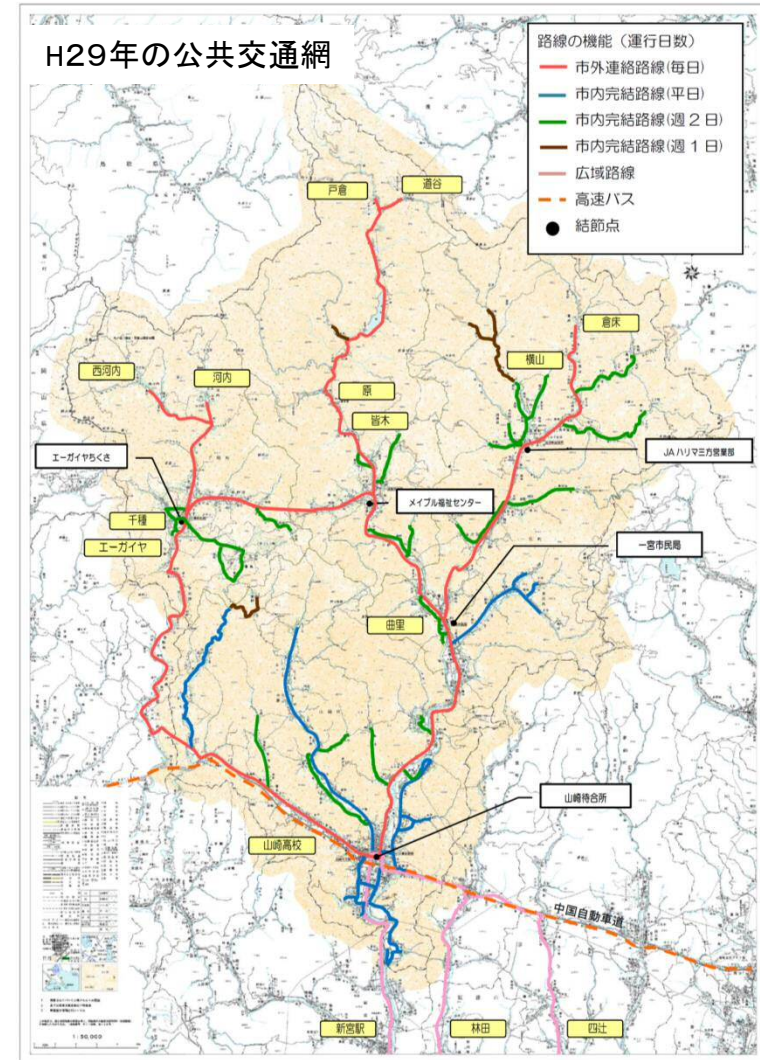
テーマ4

○公共交通ネットワークの形成について

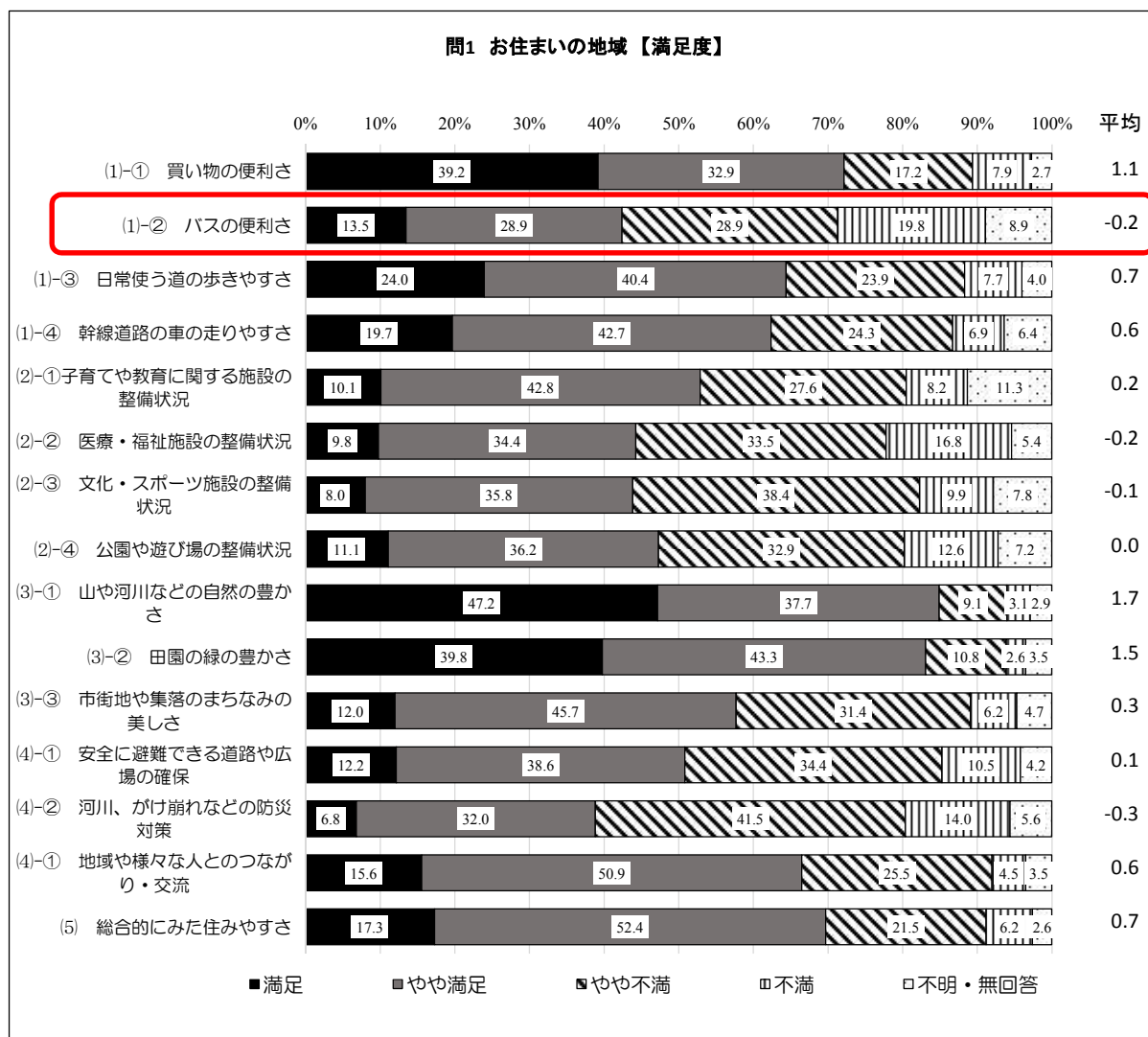
- 移動の広域化、ボーダレス化の時代に形成すべき交通ネットワークは？
- 中国道を活かしたまちづくりを行うには？
- 高齢者が増加する将来において、バス交通網はどうすべきか？
- 市民は、来訪者の徒歩、自転車による移動を増やすにはどうしたらよいか？
- パーク&ライドの他に、マイカー移動を補完するものは？

【都市間交通の状況】

- ・都市間交通：中国自動車道の高速バス（神戸、大阪、京都、津山市方面）
- ・路線バス：神姫バス(株)等の各路線
- ・循環バス：営業所を中心として、イオン、医療モールなどを結ぶコミュニティバス
- ・その他（外出支援サービス）：障がいや高齢によりバスを利用できない人がタクシーを利用できるサービス

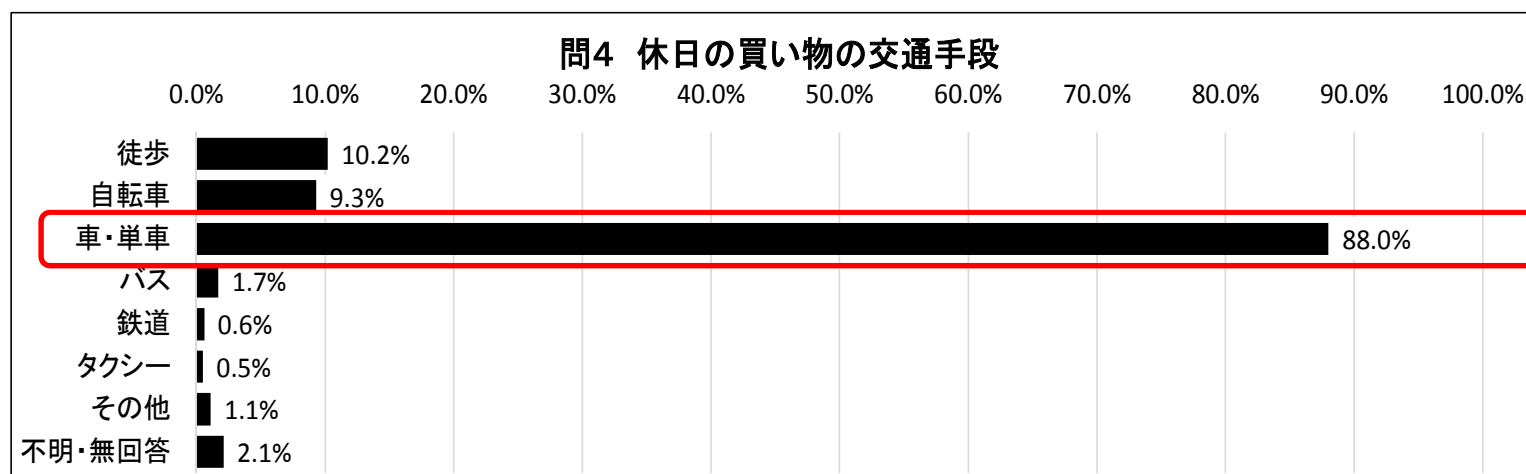
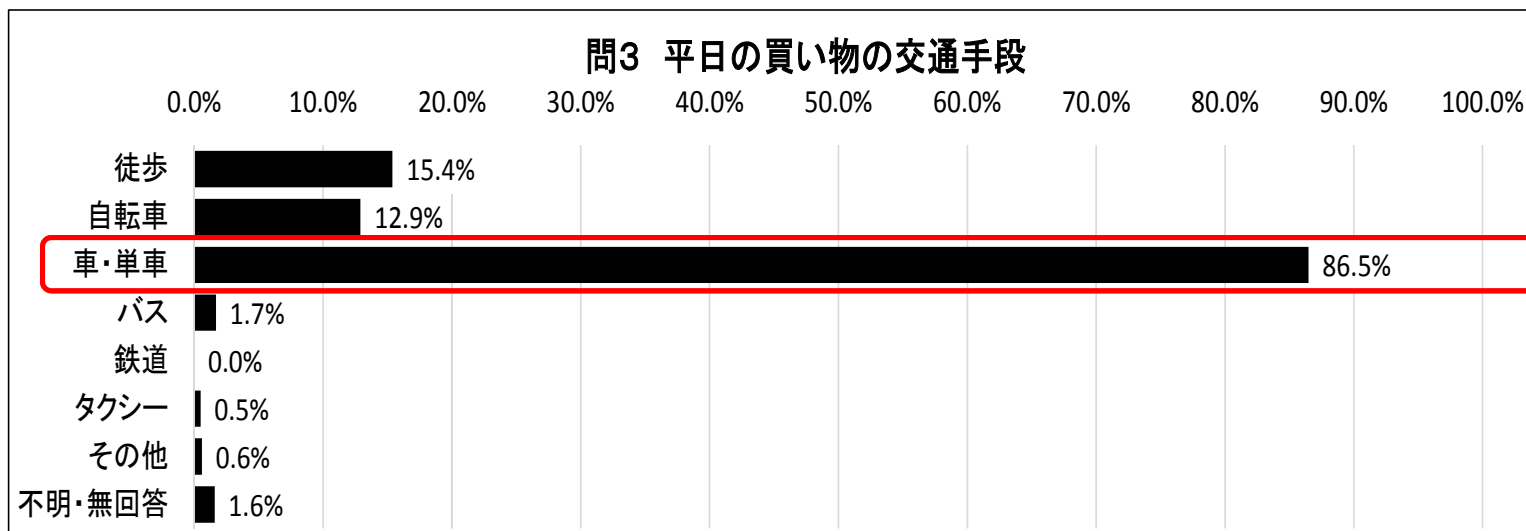


【市民アンケート調査の結果】



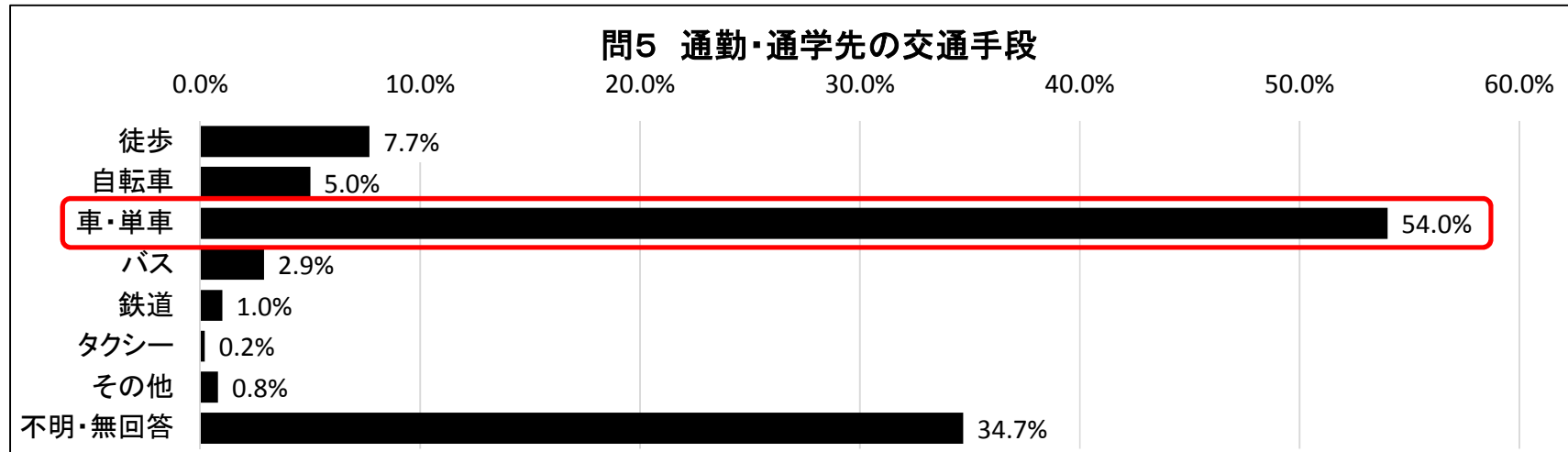
お住まいの地域のバスの便利さは、「不満」「やや不満」が「満足」「やや満足」を少し上回る。

【市民アンケート調査の結果】



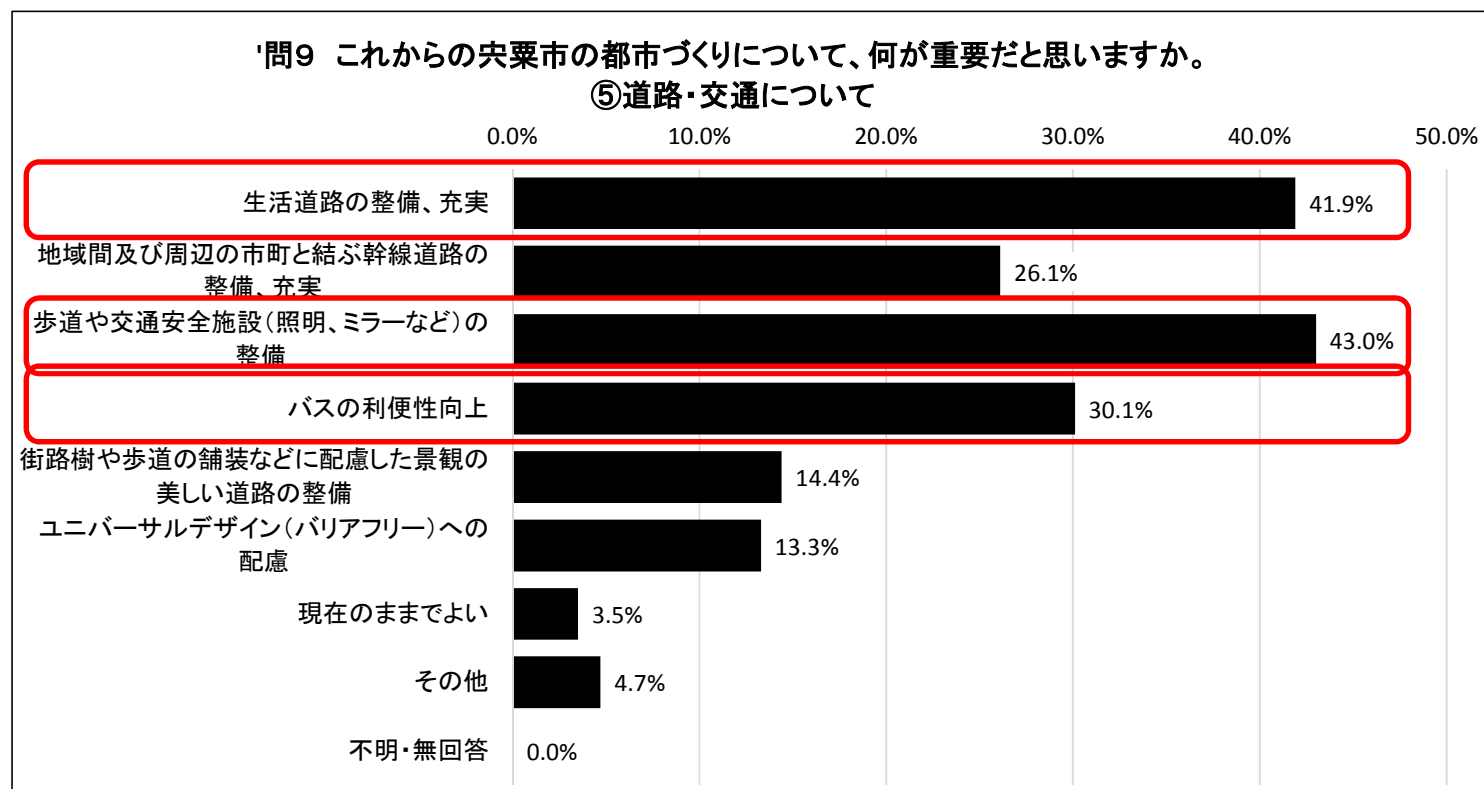
平日、休日の買物手段として使っているのは、ともに車・単車で約90%を占める

【市民アンケート調査の結果】



通勤・通学手段も車・単車が大半を占める

【市民アンケート調査の結果】



多く支持されたのは、
 「歩道や交通安全施設(照明、ミラーなど)の整備」(43.0%)
 「生活道路の整備、充実」(41.9%)
 「バスの利便性向上」(30.1%)など。

テーマ5

- 緑豊かな森と水の環境資源や歴史的文化資源の活用について
 - 生活や生業の中に、森や水など環境資源の恵みをどのように取り込めるか？
 - 歴史的文化財やまちなみ景観をまちづくりの中でどのように活かすか？

図 都市公園の分布状況

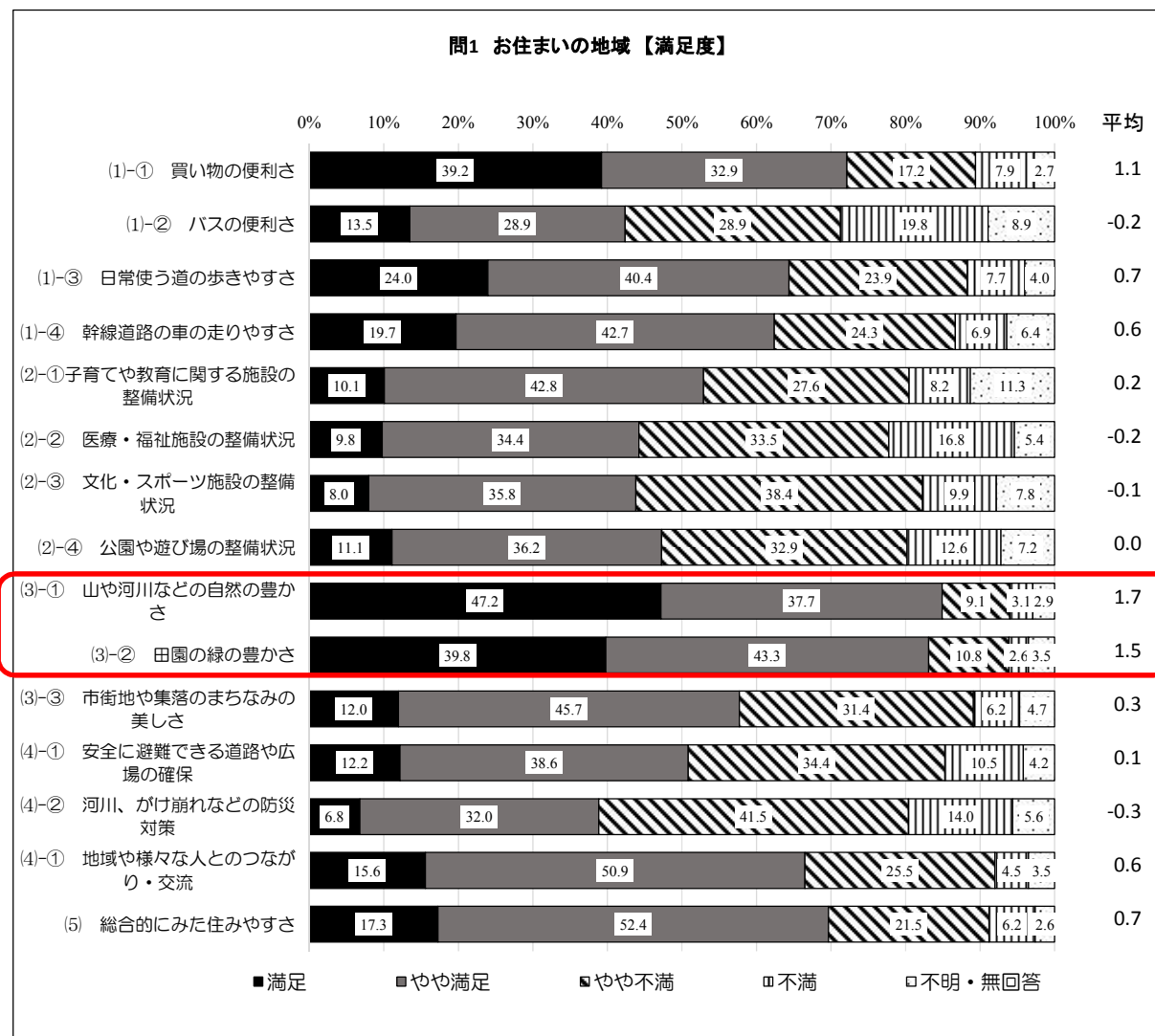


国見の森公園



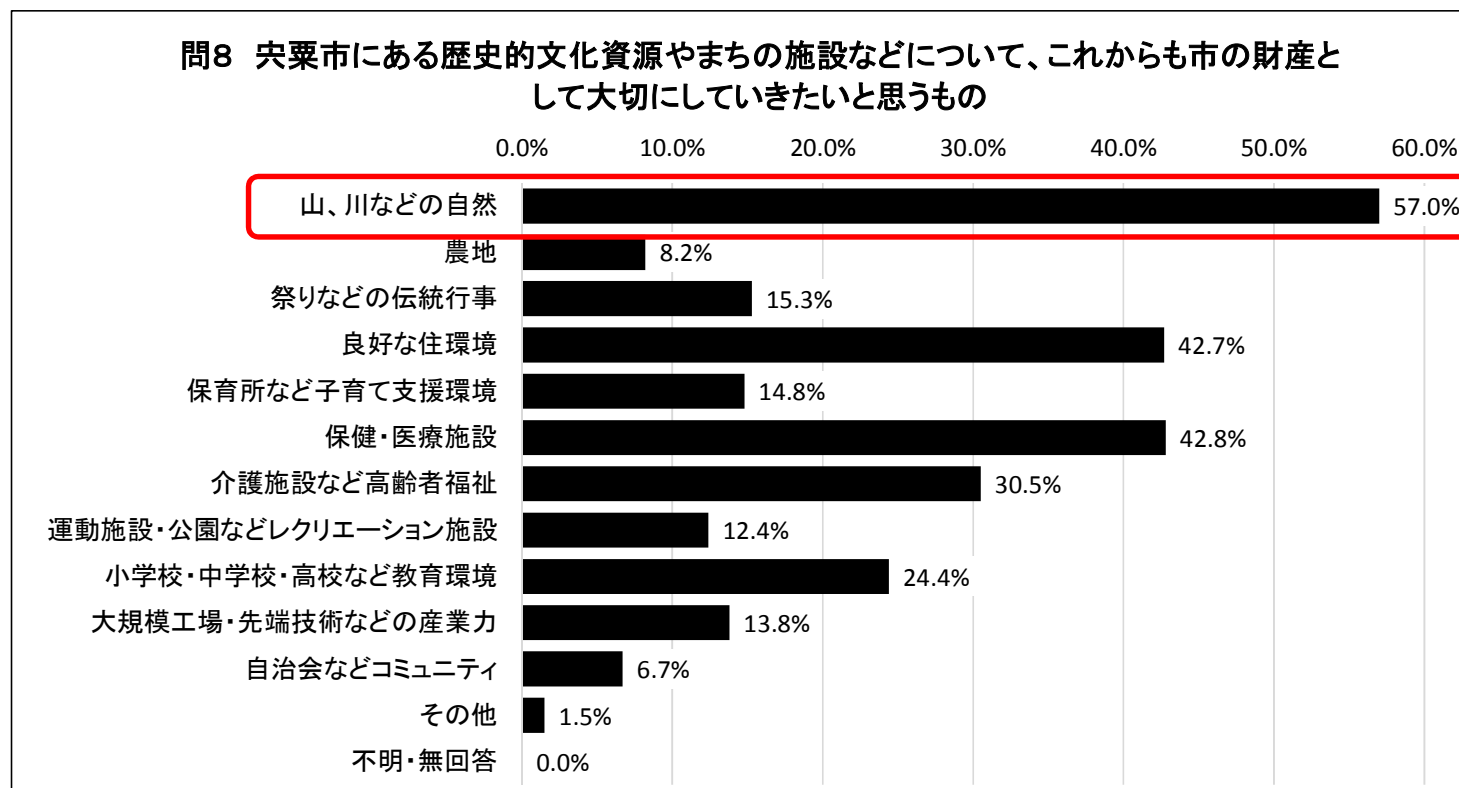
鹿沢城跡の紙屋門

【市民アンケート調査の結果】



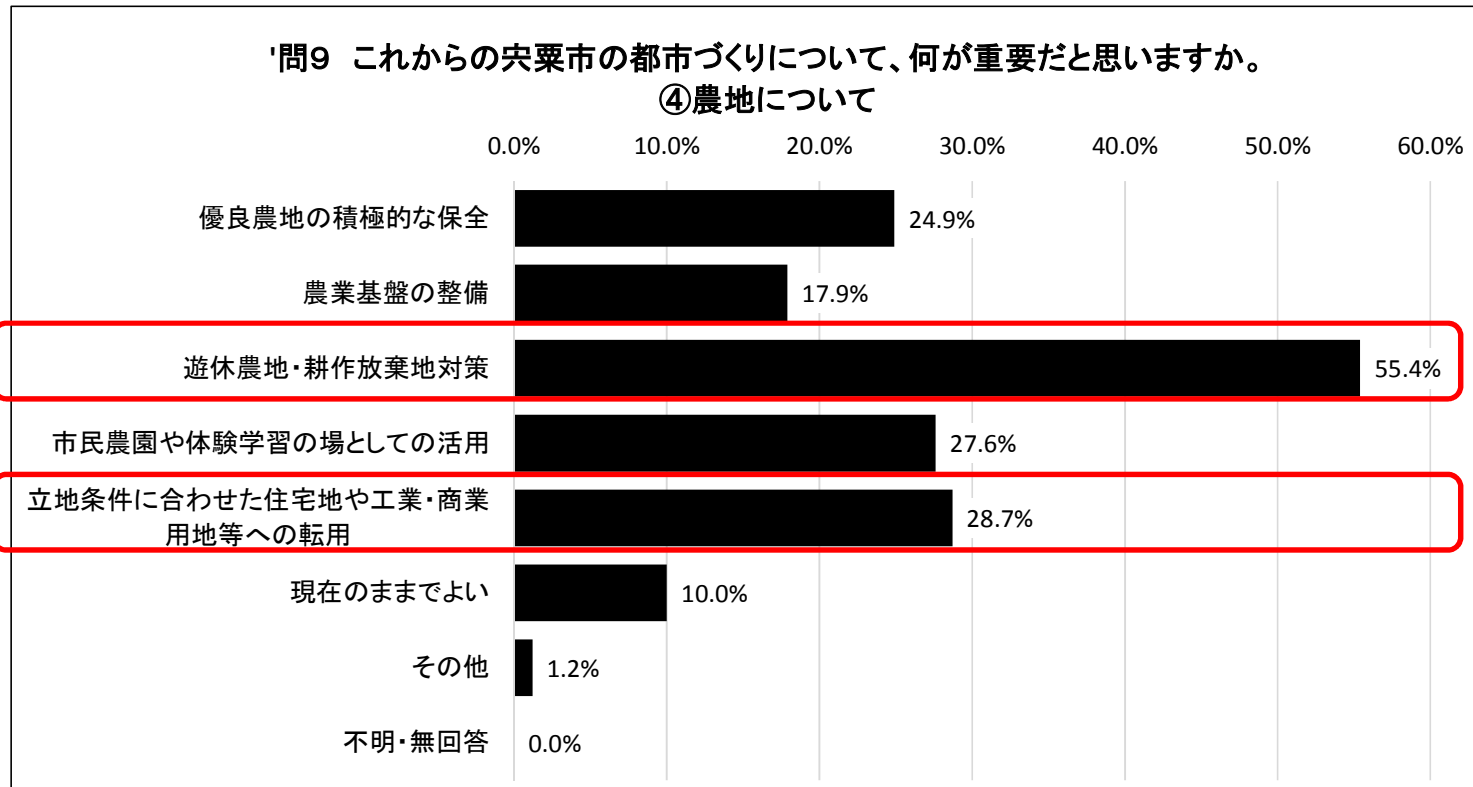
・「山や河川などの自然の豊かさ」や「田園の緑の豊かさ」の評価が高い。

【市民アンケート調査の結果】



・最も多く支持されたのは「山、川などの自然」(57.0%)

【市民アンケート調査の結果】



・多く支持されたのは

「遊休農地・耕作放棄地対策」(55.4%)

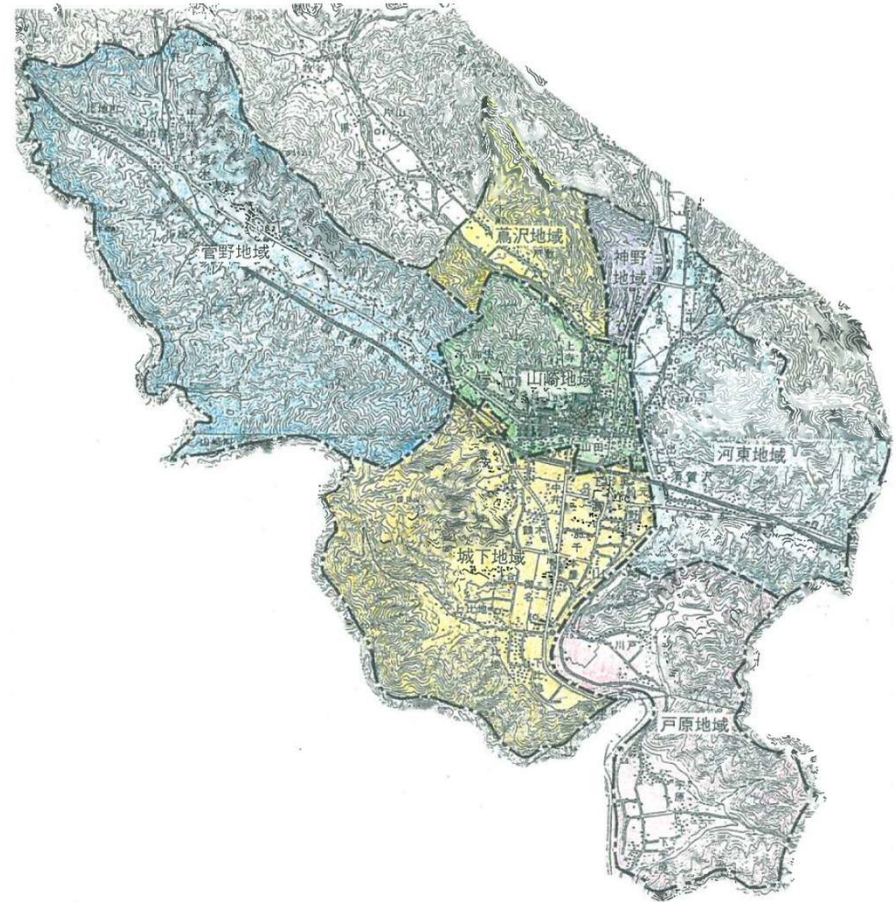
「立地条件に合わせた住宅地や工業・商業用地等への転換」(28.7%)など

4. 地域別のまちづくりについて

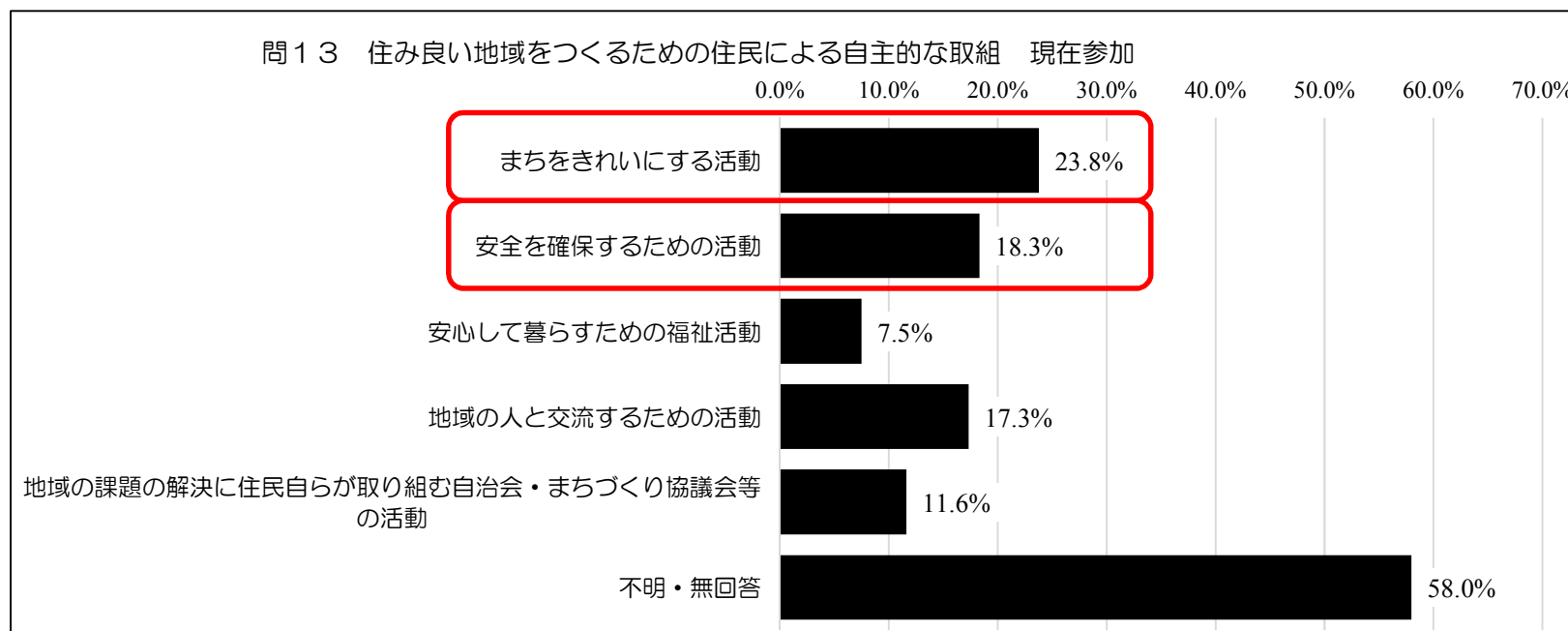
テーマ6

○地域コミュニティレベルのまちづくりについて

- 地域別構想の単位として、前回都市マスの区域割は適当か？
- 地域コミュニティレベルのまちづくりを活性化するためには？

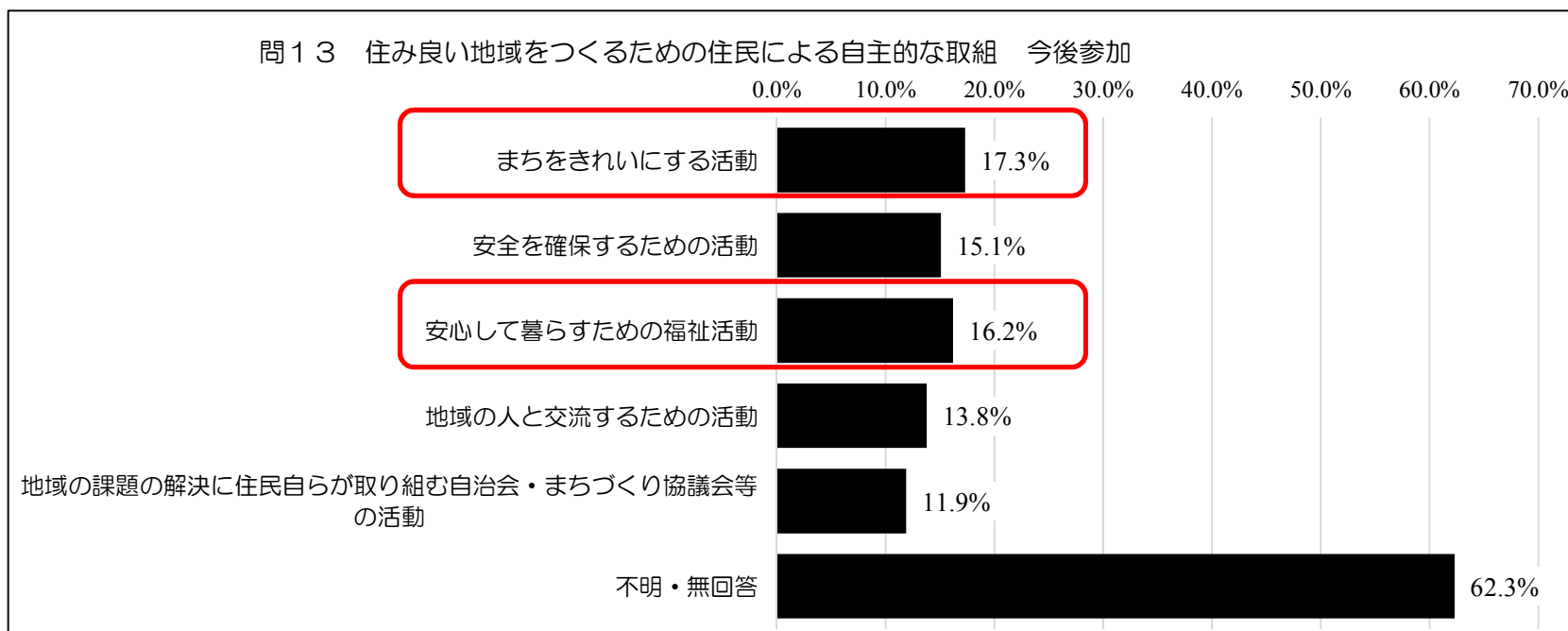


【市民アンケート調査の結果】



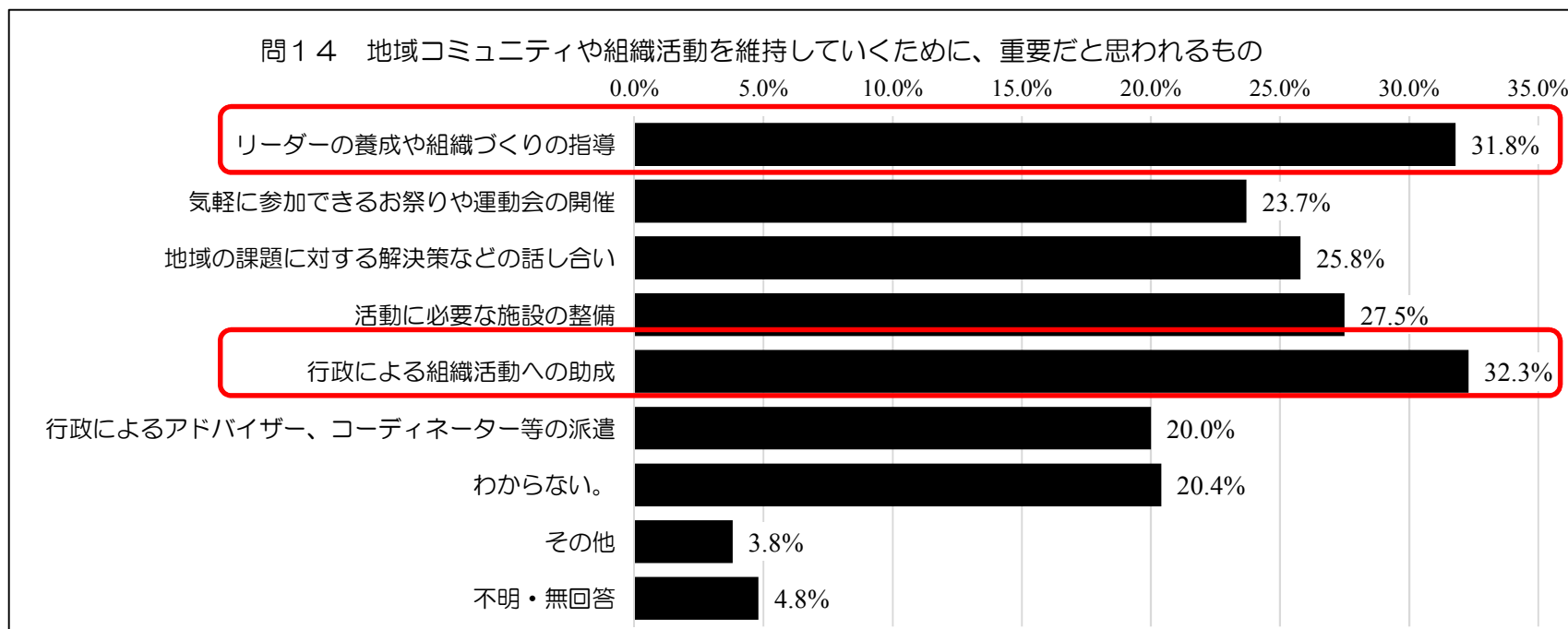
・現在参加しているとして多いのは、
「まちをきれいにする活動」(23.6%)
「安全を確保するための活動」(18.3 %)など

【市民アンケート調査の結果】



・今後参加したいものとして多く支持されたのは、
「まちをきれいにする活動」(17.3%)
「安全を確保するための活動」(16.2%)など

【市民アンケート調査の結果】



・多く支持されたのは、
「行政による組織活動への助成」(32.3%)
「リーダーの養成や組織づくりの指導」(31.8%)など